平成 27 年度　伊那市立西春近北小学校評価表

学校関係者評価；（A：十分達成された　B：ほぼ達成された　C：不十分であった）　自己（職員）評価（a：十分達成された　b：ほぼ達成された　c：不十分であった）

学校教育目標	重点目標（中長期的目標）
○　明るい子ども ○　あたたかい子ども ○　かしこい子ども ○　たくましい子ども	・個性を大切にしながらも、集団の一員としての自覚を高め、誰とでも明るく思いやりをもって接することができる子どもの姿を全教育活動の中でめざす。 ・学習面では、自ら課題をもち、友と支え合いながら粘り強く追究していける子どもの姿をめざす。

今年度の重点目標
(1) 丈夫な体と心 ①「早寝・早起き・朝ごはん」 ②楽しく運動・元気に遊ぶ ③最後までがんばる
(2) 感謝と思いやり ①大きな声で明るいあいさつ ②傘やくつをそろえる ③すみずみまでみがくそうじ
(3) しっかり勉強 ①１時間１発言 ②くり返してしっかり身につける【ドリル】（学校） ③くり返してしっかり身につける【宿　題】（家庭）

総合評価

○重点目標に対する評価が全体的に昨年度より上がった。あいさつや清掃，行事などに委員会や学校全体として組織的に取り組んだ成果が出てきたと思われる。そんな取組を継続し，明るく素直で元気な北小の子どもたちの良いところを今後もさらにのばしていきたい。
○学習に関しては，参観に来ていただいた多くの方から子どもたちの取組の良さや先生方の指導における努力や工夫が評価されている。グループ・ペア学習の良さや大切さを職員が共通認識して学習指導研究に取り組み，また，子どもたちもグループ・ペア学習で思ったことを気軽に口にしたり，教え合ったりしながら学力をつけている。挙手をして皆の前で意見を述べることだけが発言ではなく，つぶやいたりグループの中で考えを伝え合ったりすることも発言の一つであるという認識を，子どもたちにも保護者にも広めていきたい。
○教育活動がよりよく展開される基盤になる職員間や保護者・地域との連携の評価が高い。今後も、保護者・同窓会・地域の皆様との連携を大切にしながら信州型コミュニティースクールとしての活動を推進していきたい。

成果と課題	評価	改善策・向上策
①早寝・早起き・朝ご飯の生活習慣ができている子どもがほとんど。遅刻する児童もなく，規則正しい生活ができている。 ②年間を通して，朝、休み時間に校庭や体育館で遊ぶ子どもが多い。学年の枠を越えて遊ぶ姿も見られる。生活科室への鉄棒設置や体育科提案の「西春運動広場」（フィールドアスレチック）は子どもたちの運動に対する意欲付けになった。 ③運動への取組や粘り強さについては，本校にもやや二極化の傾向はある。	A a	①委員会による呼びかけが功を奏している。早寝は健康にとって大切なことだということを呼びかけ続けたい。 ②委員会で学年間の仲が更に深まるような交流を考える。「西春運動広場」は機会を増やしたい。 ③仲間づくりや対人関係ゲーム等を用いながら、友だちを肯定的に受け入れたり、新たな良さに気づいたりできるように促す機会を設けていく。学習や運動についても、スモールステップを設けながら、「自分もできる」雰囲気をつくり、誰もが活躍できる学級集団づくりを目指していくようにしたい。
①あいさつについては，総務代表委員会の児童が、毎朝大きな声で挨拶を呼びかけ、北小あいさつの日に低学年も参加している姿がとてもよかった。挨拶がよくできる子とそうでない子、また、学校と地域で差の課題は残っている。 ②玄関のくつや傘がそろっている。保健室入室際も、くつをしっかり並べている。 ③清掃係の呼びかけにより、静かに熱心に掃除できるようになってきた。清掃係が年間を見通した計画を立て、活動への意識を高めた。また，６年生が下級生の良い見本となった。	A b	①信州あいさつの日の取組を地域でも協力いただき，見守り隊の方に学校と同じ幟旗をもって声をかけていただいている。児童会のあいさつ週間も続けていく。また、教師から大きな声で率先して挨拶をしていくことも忘れない。 ②③児童会による挨拶の活動、清掃係による、清掃の方針等、学校体制で行っているものは、引き続き行っていく。
①挙手して発言する児童が高学年になるにつれ固定化してくる傾向はあるが、グループでの話し合い活動に積極的に参加する児童がほとんどである。 ②ドリルによる繰り返し学習で基礎が定着してきた。 ③全体的に、家庭学習も含め、勉強する習慣ができている子どもが多い。家庭学習はほとんどの子がやってくる。しかし，時々忘れる子が高学年になるにつれ固定化してくる。	B b	①つぶやきやうなずきが評価される学習環境を作っていく。グループ活動・ペア学習の効果的な活用について研究を進めながら、子どもたち１人ひとりが活躍できる学習をつくっていきたい。 ②朝のドリルの時間・毎日の５分間ドリル・月２回の朝ドリルを継続していく。 ③「家庭学習のすすめ」を家庭配布し、学級懇談会等で家庭学習について話し合う機会を設けて、学校と家庭で連携して学習を見ていくようにしたい。

領域	対象	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動	教育課程	・本校の教育課程に沿って、適切な履修がなされている	○児童の実態によって時数の多少は若干あるが、どの学年も教育課程に沿って履修すべき時数を超えて学習を進めることができている。	A a	○新学習指導要領のもとに、年間指導計画に基づいて指導内容や授業時数の確保、児童の実態に沿った学習指導を計画的に行う。 ○行事や会議等の精選、運営の効率化、学習指導の向上、ドリル学習の時間の増設等によりさらに学力を補完していく。
		・児童、職員、保護者、地域の願いや実態に寄せて、魅力や特色ある行事や教育活動が適切に位置付いている	○地域の方に指導や協力をお願いする活動だけでなく，地域の方からもボランティアで熱心に関わっていただく活動等もあり，本校ならではの活動が多い。そして子どもたちもそれらに意欲的に取り組んでいる。 ○意義や価値のある行事が多々あり、それに係わる準備・練習等に費やす時間がかさみ、児童や教職員のゆとりのなさにつながる面もあったので，特に学力向上・授業改善と関連づけて、見直しを行った。	A b	○どの行事も教育的な価値が高く、積み重ねてきた経緯や地域との関わりもあり、焦点化して論じることはできない。多様な視点からの慎重な検討を要する。今後も連携を取り合いながら取り組んでいく。
		・計画的に設定され、諸会合も適切に位置付いている	○設定や位置づけはよいが、会合や会議の進め方や内容の取り扱いについてはさらに工夫の余地がある。	B b	○週日課に位置づく諸会合は弾力的な運用をしてきているが、子どもと向き合う時間の確保等今後も改善策を検討していく。
		・適材適所に人員配置がなされている	○おおむねよいが、校務の分掌に偏りが感じられる面もある。職員個人のさまざまな事情も加味しながら可能なかぎり適切な人員配置にこころがけていく。	B b	○実態に合わせ反省を行い検討し、分離・統合、新設・廃止を検討したい。配置は、様々な視点（適材適所・学年・内容の関連性・校務の質と量・個々の事情等）を考慮して学校運営委員会等にて話し合い、調整して進める。
	学習指導	・基礎・基本の定着に力を入れている ・ねらい（つける力）を明確にし、授業の流れにめりはりをつけ、ねらいの達成の見とどけを行っている（授業の３観点の重視）	○３観点は重視されている。本時に何を身につけさせるか、子どもの状況を見ながら、さらに見極めていく必要がある。ドリル学習、家庭学習で計算力が身についてきた。 ○グループ活動やペア学習、個にも配慮した授業展開を心がけることができたが、学力差や定着面でまだまだ課題がある。引き続き教材研究や授業実践を積み重ねていきたい。	A a	○「ねらい・めりはり・見とどけ」を意識した授業改善に今後も努めていく。 ○基本の定着が不十分な子には，繰り返しその子どもに合った内容の課題を出し，学力を身につけさせたい。 ○昨年度同様ではあるが、体育科からの教材や全校運動に関する提案がとてもよいので、他の教科でも先生方の知恵や指導の仕方を共有させていただける機会があると、子どもたちの学力向上にもつながるように思う。
		・グループ・ペア学習を取り入れ、操作・体験的活動、教材教具の工夫をし、主体的な学びを図っている	○一斉授業では発言しない子も少人数で相談する時間を取ることで積極的に声を出す姿が見られ、全体の場での発言への意欲が高められた。	A a	○ペア・グループ学習は、引き続き色々な教科でとりいれていきたい。
		・児童が課題をみつけ、追究する学びの展開を図っている	○授業方法・形態に工夫している姿が見られる。題材設定にも子どもの思いを取り入れた題材が見られる。	A b	○子どもの実態把握からの授業作り，一人ひとりに合った目標設定やスタート地点の見極め，評価まで見とどけること等日々の授業の中で少しずつでも実践を積み重ねていきたい。
		・学習準備、整理整頓、ノートへのまとめ、家庭学習等の学習習慣が定着している	○学習習慣の定着はほとんどの子はできてきている。ノート指導はもう一歩である。 ○宿題をやってくることができない子が、固定化し、励ましてもうまくいかなかった。	A a	○学習の準備、家庭学習の習慣においては家庭と連絡を密にし、学校での状態を知ってもらっておうちの人の協力を得るようにしたい。 ○本校での最低限の授業のきまりを今後も全学年で徹底していく。
	生徒指導	・児童の実態や気持ちを理解し指導支援している	○特別支援学級の先生方が、学級の活動や学習に対応してくれ、安心して学習がすすめられた。 ○子どもの気持ちや考えに寄り添って、細かく指導している。	A a	○短時間でも子どもたちの様子について共通理解する時間を確保していく。それは職員会議などの場だけでなく、普段からの職員間のコミュニケーションの中でも十分に可能である。何でも話のできる職場の雰囲気をこれからも大切にしていきたい。
		・どの子にとっても居場所があり、いじめや不登校が起こらない学級づくりを行っている	○あたたかさとつながりを大切にしてきた。 ○特別支援学級在籍児童を学級の構成員として受け入れ仕事も同等にしたことで、本人も周囲も学級の一員であることを認識できた。	A b	○不登校傾向を示した児童に，教室にいるのがつらくなったらリフレッシュタイムとして保健室や相談室で過ごして良い時間を確保するように対応したが，こういった柔軟で組織的な対応が今後も必要になっていく。 ○子どもにとって居心地のいい学級がつくられているので、引き続き、先生方の指導をお願いしたい。また，専科や他の立場の先生もどんどん学級づくりに協力していくことが大切だと思う。
		・児童理解を共有し、組織的な対応が図られている	○支援に入ってくださっている先生方と、ちょっとした時間に子どもの様子について情報交換できてありがたかった。職員間の児童理解、共通理解をさらに大切にしていきたい。 ○校内で、多くの先生方が子どもを見たり、受け入れたりしていただける体制ができている。	A a	○職員会議での児童の情報交換の時間は大切な時間である。今後も確保していく。 ○担任と子どもたちとの関係も大事であるが、子どもが悩みを打ち明けられる環境を用意してあげられるよう、多くの窓口を設けられるようにしたい。
		・おたよりや学級懇談で児童の様子を定期的に発信している ・保護者と連絡・相談を密に行っている	○どの学級も毎日または、毎週お便りをつくって配布した。日々の活動や変化を連絡帳や電話をとおして定期的に伝えることで、保護者の方にも家庭での状況など伝えた。 ○子どもに何かあった場合や支援について悩んでいる際に、保護者とすぐに連絡を取り合っている。また，学校の様子を連絡帳やおたよりで伝え，連絡を密にできた。	B b	○今後も家庭との情報を光にしていくよう心がける。また，市教育相談員、スクールカウンセラー、医療機関など外部の専門機関との関係を深め、連携していく。
学校運営	安全	・定期的に点検が実施され安全への配慮がなされている	○施設設備管理は月１回「安全の日」の定期的点検が確実になされ、校務技師の修理も敏速に行われている。 ○教頭、校務技師を中心に安全に関して校舎内外に目を配った。	A b	○校舎の老朽化に伴い、施設設備の点検はより確実さが求められる。定期点検は勿論毎日の点検を着実に実施し、早期発見、早期対応に努める。月一度の点検日だけでなく、日頃から多くの目で点検し気づいたことを出し合い、改修に取り組んでいく。
		・危機管理意識を常に持って、児童への安全の配慮がなされている	○食物アレルギー重症児童が多いが、給食の先生や担任の先生が常に心配し、事故のないように努めた。エピペンの研修会も行った。 ○「子ども見守り隊」の皆様に大変お世話になっている。児童が隊員の方へ感謝の手紙を出した。	A b	○児童の安全に関する情報収集に努める。「自分の身は自分で守る」を基盤とした児童自身の危機管理意識を高める。安心・安全メールを活用する。
	地域連携	・ＰＴＡ活動が適切に位置付き、円滑に機能している	○ＰＴＡ作業やバザー等とても協力的で円滑に機能している。	A b	○これからも保護者や地域との連携を大切にしていく。Ｐ，Ｔ，Ａすべての負担が軽減できるよう、精選するなどよりよい方法を考えていく。
		・同窓会、子ども見守り隊、子どもを語る会、北保育園、春富中、伊那西高等の関係団体や地域講師との交流・連携が図られている	○「同窓会」「子ども見守り隊」「子どもを語る会」等の学校関連団体や「はらぺこ本”本”」「小出太鼓」他、多くのボランティア講師の皆さんに大変お世話になり、学社連携が機能している。 ○たくさんの会があり、会合も多く、職員の負担がやや大きいように思う。	B b	○「明日の地域を担う子どもたちの健やかな育ち」を基盤にし、よりよい方向を目指す。また、講師の発掘は北小信州型ＣＳ運営委員会や同窓会人材バンク委員会へもお願いし、活用の拡充を図っていく。
	研修・職員連携	・自己課題に寄せた日々の授業改善に取り組み、全校研、授業公開、職員研修等が推進されている	○互いの授業を見合ったり、相談をしたりしながら、授業内容を高めていくことができている。 ○研究授業の授業者をさせていただき、授業実践について、多くの先生方から、ご指導をいただく機会があり大変勉強になった。若手教員にとって、授業を見ていただける機会をもたせていただけるのはとてもありがたい。	A b	○授業公開の機会（実践の機会・参観の機会共に）は次年度も充実させたい。できれば授業を見合う機会がもっとほしい。 ○周りから学び、今までの自分今までのやり方を変えられる柔軟さを持ち続けたい。
		・校内外の研究・研修会へ参加している	○校内職員研修で地域研修、ＡＥＤ研修等行うことができた。 ○外部研修への参加については、全校体制で補充するようにして研修への参加を行っている。	B b	○研修は児童に還元されるという認識から前向きに参加したい。本年度のように全校体制で（校長、教頭も含め）補充要員として支える。
		・協力し切磋琢磨しあい、個々の持ち味が生かされた教育実践が展開されている	○教職員間で助け合いながら学校運営がなされている。一方，それぞれのやり方で教育が行われており、子どももそれをしっかり見て育っている。 ○全校の子どもたちをみんなで見ていこうという雰囲気を大切にしていきたい。	A b	○今後も、支え合い切磋琢磨し合いながら、一人ひとりの職員の持ち味が発揮され、児童と共に充実した教育実践が成されていくよう協力体制・職員の和を大事にしていく。
		・服務規程や綱紀について研修を積み意識が高まっている	○情報セキュリティ研修、非違行為防止研修等積極的に行い、綱紀粛正への全職員の自覚は高いレベルで保たれている。	A a	○今後も、教育公務員としての自覚や自分と仲間を大切にすることを基盤にして綱紀粛正の保持に努め、非違行為防止を徹底する。 ○「報告、連絡、相談」が確実になされるように個々の教職員とつながり連携していく。